

平成 26 年度 東京都立上野高等学校学校経営報告

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

ア 学習指導

- ① 学力向上推進プランに基づき、生徒の学力の分析を行い、週 34 単位時間による豊富な授業時数を確保し、確実な学力の定着と進学に向けた学力の向上を目指し、学習指導の充実を図った。上野高校学力スタンダードを策定するとともに、定期的に教科会を開催するなど、組織的かつ計画的な学習指導を目指し計画を推進した。
- ② 1・2 年次での英語・数学の習熟度別授業、各学年 2 クラスの特別進学クラス編成、補習・講習の実施などにより、生徒の理解度に応じた指導を充実させ、生徒の学力の向上を図った。自習用教室の午後 7 時までの開放延長や、1 年生の早朝学習などを導入し、自学自習の態度を育成し、学習習慣の定着と進学に向けた学力の向上を図った。
- ③ 数値目標である家庭学習時間の増加については、各学年において目標値には届かなかったが昨年度を上回る家庭学習時間が確保できた。今後更に、生徒の一層の学力向上に向けた指導を充実させていく必要がある。

イ 進路指導

- ① 進路の手引きを活用した進路ガイダンス、フロンティア講座（1 年生）、大学模擬授業（2 年生）、大学入試相談会（3 年生）などの進路行事の実施や、早い段階から進路意識を高めるホームルーム活動での指導などにより、キャリア教育の充実を図った。
- ② 模擬試験結果の分析を全教員で共有化し、課題解決に向けた指導を進めた。成績個人票の導入など学力分析をデータ化し、個人面談や学年集会、保護者会等で活用するなど、生徒一人一人の将来設計に基づいた進路指導を進めた。
- ③ 土曜講習、長期休業日中の講習、勉強合宿等の実施により、進学指導を充実させた。数値目標である国公立大学 20 名には届かなかったが、早稲田大 10 名をはじめとする国公立及び難関私大の合格者数が近年で最も高い実績を上げた。

ウ 生活指導

- ① 入学前や入学後のあらゆる機会を通じて、本校教育目標の「自主協調」の意味を正しく理解させるよう指導を徹底した。全校ホームルーム委員会などの生徒組織を機能させ、自律的な生活態度とお互いを尊重する態度の育成を図った。
- ② 遅刻指導や身だしなみ指導の徹底を図り、規律ある学校生活の実現を目指し取り組んだ。セーフティ教室、自転車安全教室、1 年生全員を対象とした宿泊防災訓練を実施し、安全で規律ある学校生活を送らせる指導を充実させた。
- ③ カウンセリング委員会を機能させ、スクールカウンセラーを活用した教育相談体制の充実に向け取り組んだ。

エ 特別活動・部活動

- ① 生徒の有志活動を積極的に支援し、運動会や文化祭等の学校行事の充実及び各種委員会の活性化に努めた。
- ② 1 年生全員による近隣 30 施設での奉仕体験活動、有志生徒による警察・消防関係行事への参加、近隣中学校及び小学校への部活動生徒による連携活動、地域清掃活動や地域行事への生徒参加など、自主的・実践的な活動を行った。
- ③ 部活動振興予算の重点配付を受け、部活動の活性化に取り組んだ。規律と自覚ある活動を進め、男子バレーボール部及び美術部生徒が児童・生徒等表彰を受賞した。

オ 募集・広報活動

- ① 出前授業及び出前講話、オープンハイスクールによる体験授業、中高合同教員研修会、上野中学校 2 年生全員による本校授業体験、近隣中学校との部活動交流など、中高連携事

業を進めた。

- ② 区や中学校等が主催する説明会も含め多くの学校説明会に参加し、本校の教育内容や成果を広く周知した。本校で実施した学校説明会には、昨年を上回る参加者を得るなど、地域からの関心を高めることができた。
- ③ 入学者選抜の応募倍率は、推薦に基づく選抜では男女とも昨年度を上回り、学力検査に基づく選抜では学区撤廃後最高であった昨年度と同じ 1.85 倍の高倍率となった。

カ 学校経営・組織体制

- ① 企画調整会議を中心とした学校経営を行い、管理運営規程に基づく学校運営を徹底し、組織的な業務遂行と学校運営を進め、諸課題に組織的に対応した。
- ② 校務分掌内の協働体制と分掌間の連携を深め、校務運営の活性化を図った。
- ③ 経営企画室の学校経営参画を促進し、迅速かつ効率的な業務の遂行に取り組んだ。

(2) 重点目標への取組と自己評価

- ① 家庭学習時間の充実については、各学年において目標値には届かなかったが、2年生の学習時間が昨年度を上回った。授業時間以外での学習時間は増えてきているはずだが、進路を意識した早い段階からの学習習慣の定着と中だるみの防止が課題である。
- ② サテライン講座の導入、自習室の開放時間延長、早い学年からの進学ガイダンスの実施、学生チューターの導入、合格体験発表会の実施など、新たな進路指導の取組を行い、昨年度を上回る進学実績を上げた。
- ③ 1年生茶髪ゼロ、1・2年生年間 20 回以上の遅刻者数 3 名と、自主協調の精神を尊重しつつも、規律ある学校生活の実現を図ることができた。自己指導能力の育成による生徒の規範意識の向上に向けた指導の充実を継続的に進めていく。
- ④ 学校行事や部活動の充実などにより、生徒の学校への帰属意識は高まった。有志活動を積極的に支援するなど、教育目標である「自主協調」を正しく理解させ、その育成を図っていく必要がある。
- ⑤ 募集・広報活動の改善・充実や、近隣中学校との中高連携事業を進めた。東部地区を代表する進学校を目指し、更に取組を充実させていく。
- ⑥ 組織的な学校運営を進め、諸課題の解決を図った。

(3) 「今年度の数値目標」の実績

[] 内は平成 25 年度実績、() 内は平成 26 年度目標値

- ① 生徒の家庭学習時間の増加
3 年生 : 231 分 [231 分] (240 分)、2 年生 : 82 分 [68 分] (120 分)、1 年生 : 53 分 [81 分] (90 分)
- ② センター試験の受験者数の維持
277 人 [269 人] (280 人)
- ③ 4 年制大学への現役進学者の増加
67.3% [69.2%] (70%)
- ④ 国公立大学の現役合格者の増加
13 人 [3 人] (20 人以上)
- ④ 難関私立大学〔早・慶・上智・明治・青学・立教・中央・法政・学習院・理科大〕の現役合格者の増加
96 人 [87 人] (100 人以上)
- ⑥ 卒業時進路決定率
77.2% [79.6%] (80%)
- ⑦ 入学者選抜の高い応募倍率の維持
男子 1.87 倍、女子 1.83 倍、計 1.85 倍 [1.85 倍] (1.90 倍)

2 次年度以降の課題と対応策

(1) 学習指導

教科内及び教科間の連携を深め、1年次からの家庭学習時間増加による学習習慣の定着を進める。上野高校学力スタンダードに基づき基礎基準を明確にするなど、入学年次からの学力の確実な定着を目指す。授業の工夫、土曜講習、長期休業中の講習、勉強合宿、朝学習の実施、自習用教室の活用拡大などを通して、生徒の学習意欲を高め学力の向上を図る。

(2) 進路指導

キャリア教育の全体計画に基づき組織的な進路指導体制を構築し、進路指導部と学年担任との連携を深めた指導を行う。定期的に生徒の学力分析を行い、課題解決に向けた指導の充実を図るとともに、生徒の進路意識を高め、進路実績の更なる向上を目指す。講習等の指導の充実を図り、進学に向けた学力の向上を図る。

(3) 生活指導

集団生活におけるルール、マナー、モラルを身に付けさせ、自己指導能力の育成を図る指導を徹底していく。遅刻防止、身だしなみ、授業規律などについて引き続き指導を進め、基本的な生活習慣の定着と規律ある学校生活を送らせる。スクールカウンセラーを活用した教育相談体制を充実させ、生徒個々の状況把握と一人一人に応じたきめ細かい指導を進める。

(4) 特別活動・部活動

学校行事や部活動の活性化と規律ある実践を目指し、生徒の学校への帰属意識を高めるとともに、教育目標である「自主協調」の態度を育成する。有志活動を積極的に支援し、有志生徒の能力の育成を図り、学校行事や委員会活動等の充実を目指す。

(5) 募集・広報活動

募集・広報活動の内容の充実を図り、本校の教育活動や成果を積極的に地域に発信する。学校説明会等の募集対策を充実させ、入学者選抜の応募倍率を向上させる。地域中学校との連携事業を更に進め、東部地区を代表する進学校としての地域からの理解を深めていく。

(6) 学校経営・組織体制

アドバンス校指定2年目として取組の充実を図り、組織的な学校運営を更に進め、引き続き諸課題の解決を図っていく。